

---

# クリスマス・イブ

皿尾 りお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クリスマス・イブ

### 【Nコード】

N2994D

### 【作者名】

皿尾 りお

### 【あらすじ】

クリスマスに一人のあなたへ。私も一人です。どうぞ、通り過ぎてやって下さい！

**（前書き）**

クリスマスに一人のあなたへ

今日はクリスマス・イブ。

街は宝石箱をひっくり返したようなキラメキ。

街の空気は、ひんやり冷たいけれど、僕の心は温かい。

たとえ隣に、君が居なくても。

君が居なくなつてからの僕の人生は、

不思議なくらい、安らいでいる。

きつと、「余生」とはこういう事を言つんだらう。

「ねえ、タバコ、やめなよ？」

「なんで？」

「なんでって・・・健康に悪いでしょう？」

「はは、好きなものを止めてまで、長生きしたいとは思わないねえ」

「ねえ、私のどこが好き？」

「どこがって・・・全部？」

「全部って、何なのよ？」

「だから、全部だよ。」

「ふん・・・やっぱりやりたいだけなんだ・・・」

「ねえ、もう、別れよ？好きな人が出来たの。」

「・・・」

「何も言わないんだね・・・さようなら・・・」

今日はクリスマス・イブ。

街は、パレードのような装い。

カーニバル。

・・・雪だ。

・・・天国からのガラクタ。

僕はタバコに火を着けようと、ライターを取り出す。

・・・君からのプレゼントだ。

ホント、馬鹿な女だ。

タバコを止めると言いながらの、プレゼントがこれだ。

突然、街の灯りが、ぼやけて見える。

街のざわめきが遠ざかる。

僕は街中でうずくまる。

涙が止まらない。

「心と体は、繋がっているの。だって、心が悲しいと、

体は涙を流すでしょ？」

だからかな・・・僕の体は温かい・・・

君から貰った暖かな心で、

僕の心は埋め尽くされているから・・・

完



(後書き)

ありがとう

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2994d/>

---

クリスマス・イブ

2010年11月23日03時33分発行